

「日々の理科」(第 3527 号) 2024, -4, -3
「青春18切符・日帰り大旅行 (15)」

お茶の水女子大学サイエンス&エデュケーション研究所

田中 千尋 Chihiro Tanaka

大糸線は、篠ノ井線の松本駅から、信越本線の糸魚川駅までを結ぶローカル線です。松本盆地と日本海側を結ぶ「必要な」路線なのですが、現在は途中の南小谷(みなみおたり)で運転系統が完全に分断されていて、松本～糸魚川の直通列車は1本もありません。過去には、名古屋方面から糸魚川方面への直通列車や、北陸本線から松本方面への直通列車もありました。今は、新宿から南小谷までの直通特急列車が一日一往復残っているだけで、あとは短編成のローカル列車だけが走っています。

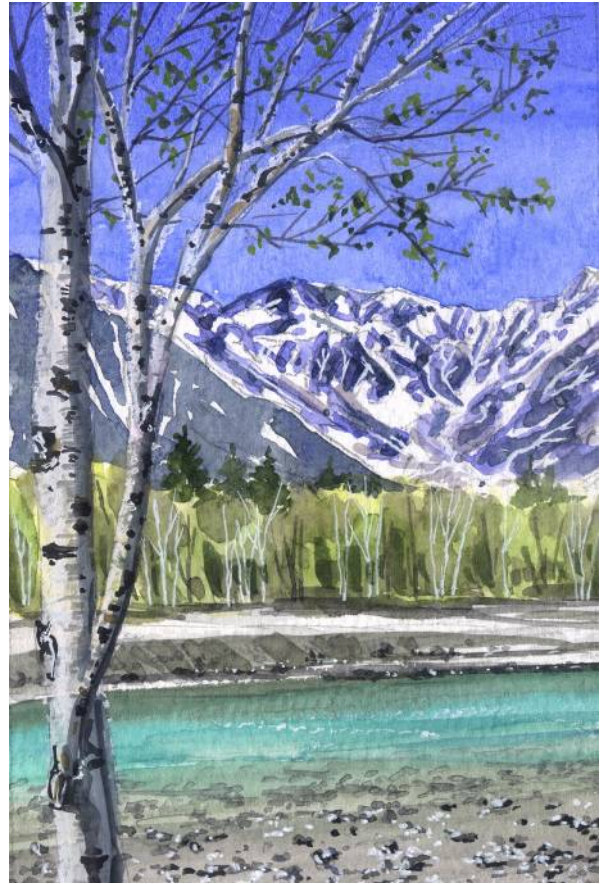


私が乗ろうと思った普通列車の南小谷行きも、2両編成の電車でした。ホームはものすごい数の人で、その実に半分ぐらいが外国人旅行者でした。写真は全部乗り終わったあとですが、車内は東西線なみに混んでいて、私も座れませんでした。今回の旅行で座席を確保できなかったのは、この列車だけです。



松本を出てしばらくすると、河原の広い大きな川を渡ります。これが「梓川(あずさがわ)」です。梓川

は槍・穂高連峰の涸沢(からさわ)、槍沢(やりさわ)、岳沢(だけさわ)などを水源に、上高地や大正池を流れ下り、安曇野(あづみの)から松本盆地に入ります。特急「あずさ号」の名の由来にもなっています。



「上高地・梓川より岳沢と穂高連峰」／画 C.Tanaka



列車は、北アルプスの麓の「安曇野」を北に向かって走ります。外国人観光客は車窓風景に歓声をあげ、次々と写真を撮っていました。駅ごとに乗客は次々と降りて、穂高駅(ほたかえき)まで来るともう余裕で座れました。残念ながら山々は霧に煙って、よく見えませんでした。